

(様式1)

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年1月17日
江別市立大麻中学校

- 1 本年度の重点目標
- 夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成
 - I 信頼される豊かで活力ある学校づくりの推進
 - II 自ら学び考える力を育む教育の推進
 - III 豊かな心を育む教育の推進
 - IV たくましく健やかな体を育む教育の推進
 - V 時代を見通し、広い視野を育む教育の推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

4：よい 3：おおむねよい 2：ややよくない 1：よくない

分野	分掌	No.	評価項目	自己評価				学校関係者評	
				評価平均	分野平均	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点		1	育成を目指す3つの資質・能力 ○知識・技能「次の学習に生かされる知識・技能」、○思考力・表現力・判断力「自分の思いや考えをわかりやすく伝える力」、○学びに向かう力・人間性「仲間とともに学習や生活を楽しむ態度」を意識して教育活動を展開していくことができたか。	3.48	3.50	A	<ul style="list-style-type: none"> ・13項目の中で中間反省を下回った項目は2項目(項目6「学年・分掌等で協力し、…」、項目12「生徒指導や進路指導などで、…」)で、他の11項目は向上しており、中間反省後に修正をして学校経営に取り組めたことがうかがえます。 ・項目5「教職員のワークバランス…」の働き方改革では、はじめて、3,000に到達する結果となりました。しかし、この項目については「2」の評価が9名と今後も改善を図らなければなりません。次いで数値が低い項目10の「PTA活動…」となりますが、昨年度から活動自体がストップしているため評価が低いことが考えられます。PTA活動は勤務時間外に実施されることが多く、活動が活発化することで働き方に無理が出てくるのが予想されます。分担し、各部で業務量を平均化しながら取り組む必要があります。「江別市立学校で実行する働き方改革推進計画(第2期)」に沿って本校の働き方改革もリニューアルして取り組んでいきたいと思えます。 ・13項目中でもっとも評価が高かったのが項目4「教育公務員として…」ですが、6月の件を意識して、生徒や保護者、地域の信頼を回復するために全教職員で強く意識して取り組んだ結果だと思えます。今後も高いコンプライアンス意識を持って業務に当たることができる職員集団であることを願っています。 	A	A
		2	生徒の努力や長所を認め、夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成に努めてきたか。	3.65					
		3	学校経営の重点を理解し、教育目標の達成に向けた教育活動に主体的に関わったか。	3.52					
		4	教育公務員としての職責の重大さを自覚し、服務規律の遵守に努めたか。	3.87					
		5	教職員のワークバランス(仕事と生活の調和)の視点を積極的に取り入れるなど、「働き方改革」をすすめたか。	3.06					
		6	学年・分掌等で協力し、組織的に業務を遂行したか。	3.52					
		7	職員間での報告・連絡・相談+確認がなされ、必要な情報が共有されていたか。	3.52					
		8	校長や教頭との学校職員人事評価制度の面談や職員のモラル向上、メンタルヘルスへの対応に向けた相談は適切に行われたか。	3.58					
		9	学校が保護者や地域に開かれ、各種たよりやHPを通じて情報発信を行ったか。	3.71					
		10	PTA活動や育成会等の活動を通し、家庭・地域との連携を図ったか。	3.26					
		11	校区小学校との連携とその組織化に取り組み、小中連携を進めたか。	3.61					
		12	生徒指導や進路指導などで、高校との情報共有や、大学など校区にある教育機関との連携に取り組んだか。	3.42					
		13	コミュニティ・スクールについて理解し、本校の教育活動が地域・保護者に理解され、協力しながら教育活動をすすめることができたか。	3.35					
教育課程・学習指導	教務部	1	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の年間指導計画を適切に作成し計画に基づいた指導及び評価の工夫改善を進めたか。(加キクラム・マシ・メトの充実)	3.65	3.41	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における2年目の学校評価となりましたが、R1、R2よりもさらに数値は上がっています。昨年度あった総合的な学習については、今年度は計画の見直しを早めに行い、実施できたことが高評価につながったと思われま す。 ・家庭学習については、小中一貫教育で小学校との家庭学習の在り方を統一し、習慣化のひとつきのきっかけにしたいと考えています。また、年度始めに家庭学習について説明するための時間を設定し、ノートの使い方や家庭学習のやり方など生徒に時間をかけて指導していきたいと思 います。 	A	A
		2	指導方法や学習形態を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図ったか。	3.55					
		3	「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めたか。	3.45					
		4	ICTを活用した授業改善を進めたか。	3.23					
		5	教育活動の様々な場面で、コミュニケーション能力や表現力を高めるように工夫して指導したか。	3.42					
		6	家庭での学習習慣を定着させるように指導したか。	3.06					
		7	放課後の補充的な学習支援等を行い、生徒の学力向上に努めたか。	3.10					

教育課程・学習指導	教務部	8	朝読書や読書啓発を通じて、豊かな心を育てる読書活動の充実に努めたか。	3.45	前のページにあります	前のページにあります	前のページにあります	前のページにあります	前のページにあります
		9	総合的な学習の時間の計画に基づいて、地域や社会と積極的に関わる体験活動を行い、学習の成果を効果的に発信したか。	3.65					
		10	キャリア教育の視点から各教育活動の中で、生き方や正しい職業観を身につけさせる指導に努めたか。	3.55					
	教務部	11	生徒会・学年・学級が連動する委員会活動を行い、生徒の創意を生かし、充実感や所属感を高める活動に取り組んだか。	3.45					
		12	教材研究を十分に行い、工夫した教科指導を実践したか。	3.42					
		13	評価規準をもとに、明確な評価方法で適切な学習評価をしたか。	3.39					
	14	少人数指導およびTT、習熟度別による授業を適切に行い、成果を上げたか。	3.32						
	15	身に付けさせたい3つの資質・能力を意識し教科指導を実践できたか。※次年度の3観点の評価にもつなげられるように。	3.45						
生徒指導	指導部	1	連絡・報告・相談+確認を徹底し、職員全体で生徒指導に取り組む体制となっていたか。	3.65	3.53	A	<ul style="list-style-type: none"> 概ね良好な数値評価と捉えられますが、相対的にみると情報モラル教育のさらなる充実が必要であり、次年度に向けての課題と言えます。今年度まで行ってきた取組に加え、生徒会活動も含めた日常的な啓蒙活動を進めていきます。 	A	A
		2	大麻中学校いじめ防止基本方針に基づいていじめの未然防止や早期発見に取り組む、適切に対処したか。	3.61					
		3	不登校傾向の生徒・保護者の心に寄り添い、適切に対応したか。	3.45					
		4	生徒理解のもと、集団生活の規律や安全に対する習慣形成に取り組んだか。	3.74					
		5	保護者や地域社会、関係機関と連携し、問題行動を未然に防ぐ取組を実施したか。	3.42					
		6	「えべつスマート4RULES」の取組を進め、携帯電話やインターネットに関する正しい使い方など、情報モラル教育の充実に努めたか。	3.29					
道徳教育	教務部	1	特別の教科「道徳」の授業交流や公開を行い、豊かな心を育てる道徳指導の充実に取り組んだか。	3.29	3.44	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は保護者への授業公開ができるよう準備していきます。 ふれあい集会を継続していきます。 (今年度は北大の臨床心理士の山元先生) 日常生活、特活、道徳や部活動等でもお互いを認め合い尊重する指導を継続します。 	A	A
		2	道徳の教科書等を活用したり、外部講師による話しを聞き、心に響く多様な指導を工夫したか。	3.48					
		3	道徳教育の中で、自他を大切に、互いに認め支え合う人権教育を推進したか。	3.55					
研修活動	研究部	1	研究主題に基づき、一人一公開授業等、実践的指導力の向上に取り組んだか。	3.35	3.45	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用については、4月から考えると大きな進歩だと考えます。今後は研究部の研修だけではなく、先生方の実践交流も積極的に行っていきたいと考えています。 	A	A
		2	授業力向上のために教科部会等を活用し研修の充実に取り組んだか。	3.55					
健康安全教育	指導部	1	災害や交通事故に対する指導とともに、危機回避能力を身につけさせる指導を工夫したか。	3.55	3.53	A	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な危機回避指導の実施を継続します。 江別警察署と連携した非行防止教室も継続して実施します。 	A	A
		2	薬物乱用、喫煙防止等に関する指導を行い、健康に対する実践的な態度を養ったか。	3.52					
特別支援教育	教務部	1	校内支援委員会（サポートミーティング）は効果的に機能していたか。	3.29	3.41	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、要支援生徒の変容・課題の交流を実施しました。 支援会議の実施、市教委、パートナーチャーター道特セン、子ども発達支援センターから助言や支援を継続します。 特別支援をテーマとした研修の実施を継続します。 	A	A
		2	保護者や関係機関との連携は円滑に行ったか。	3.55					
		3	教職員の研修や情報交流を適切に行ったか。	3.39					
事務・教育環境	環境部	1	施設・設備の安全・維持管理のための点検や整備に取り組んだか。	3.71	3.62	A	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して昨年度と同程度で、問題なく進められたと考えます。今後も継続して取り組めます。 	A	A
		2	校舎内外の清掃を徹底し、清潔な教育環境を創りだしたか。	3.74					
	教務部	3	効果的な展示や掲示を工夫し、潤いのある環境づくりに努めたか。	3.45					

事務・教育環境	環境部	4	年間指導計画に基づいて食育指導を行うとともに、指導法や教材開発の工夫改善に努めたか。	3.39	前のページにあります	前のページにあります	前のページにあります	前のページにあります	前のページにあります
		5	課題に対応した効果的な予算編成が計画され、職員の理解のもと、執行が進められたか。	3.81					
		6	諸事務は適切にすすめられ、制度の周知に基づくコンプライアンスの確立に寄与できたか。	3.84					
		7	子どもの貧困対策としての就学保障制度の理解を進めることができたか。	3.42					
部活動	指導部	1	切磋琢磨し、所属感や目標達成に努力する態度を育む部活動が保護者の理解を得て運営されたか。	3.45	3.52	A	・部活動の方針の策定と年度始めに保護者やHPによる説明を実施しました。 ・平日1日、土日1日、活動時間（平日2時間、休日3時間の徹底）を徹底します。	A	A
		2	北海道アクションプランの部活動時間や休養日を適切に設定することができたか。	3.58					

3.評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見

○事前に学校評価に目を通していただければ良かったが、時間的にしょうがない。おおむねできていたのではないかしらと思うし、コロナ禍での色々な難しさもあったと思う。今後、ICTも活用して家庭学習の取組みを模索していくことも出てくるのではないか。集団の中での学びが重要であり、そういう中で子どもたちは充実感を味わえたのではないか。

○「子どもの貧困対策としての就学保障制度の理解を進めることができたか」とあるが、実際、本校でも貧困家庭はあるのか。何か問題は出てこないのか。いじめにつながったりはしないのか。

○家庭学習について保護者評価は下がり、生徒評価は上がっている。親の要求が高いのか。この違いがおもしろい。